

教科	国語	科目(単位数)	現代の国語(2)	学年	1	類型	全クラス
学習目標	(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・(知識及び技能) (2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・(思考力、判断力、表現力) (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・(学びに向かう力、人間性等)						

期間	単元(学習内容)	学習の到達目標
年度初～ 1学期 中間考査	現代の国語【自己と他者】 まだ知らない自分に出会う (松村圭一郎)	(知) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 (学) 進んで対話が持つ双方向のコミュニケーションの意味を理解し、自分の読書体験を振り返り、対話によって「まだ知らない自分」に出会った体験を話し合おうとしている。
1学期中間 ～期末考査	現代の国語【認識を深める】 水の東西(山崎正和)	(知) 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 (学) 比較を通じて粘り強く「東西」の文化の差異への理解を深め、今までの学習を生かして自分の興味や関心を他者に伝えようとしている。
1学期期末後	現代の国語【言葉と社会】 時間と自由の関係について (内山節)	(知) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 (学) 粘り強く二種類の「時間の自由」「二つの時間」について内容や筆者の意図を解釈し、学習課題に沿って人間の自由と時間について筆者の主張に対する自分の考えをまとめようとしている。

2学期初め ～2学期中 間考査	現代の国語【共に生きる】 共鳴し引き出される力(伊藤亜紗)	(知) 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 (思) 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 (学) 粘り強く筆者の捉える「能力」について理解を深め、今までの学習を生かして同じテーマの文章を読み比べ、自分の意見を整理しようとしている。
2学期中間 ～2学期 期末考査	現代の国語【世界を広げる】 『無駄』と進化(中屋敷均)	(知) 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 (学) 粘り強く筆者が挙げた事例の意味を読み解き、今までの学習を生かして筆者の意図を正しく理解しながら、自分の考えをまとめようとしている。

3学期初め ～学年末 考査	現代の国語【共に生きる】 真の自立とは(鷲田清一)	(知) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 (学) 積極的に現代の状況に関心を持ち、筆者が述べる内容を理解し、自分の考えを深め、今までの学習を生かして「自立」という観点から他社と話し合いをしたうえで、自分の考えをまとめようとしている。
学年末考査 後	現代の国語【世界を広げる】 探求したことを発信する	(知) 話し言葉や書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 (思) 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 (学) 積極的に分かりやすさ、適切さに配慮した表現を理解し、学習課題に沿って相手の反応を予想して、話の構成や展開を工夫して話そうとしている。
使用教材 (教科書・副)	教科書：「現代の国語」(数研出版)、副教材：「新訂総合国語便覧」(第一学習社)、「大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000」(尚文出版)、「グランステップ現代文(論理・文学・実用)1.5」(尚文出版)	
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。 (授業中、先生の質問に対し、自分でしっかり考える。予習や復習で本文を繰り返し読む。文章全体の要旨を捉える。漢字を覚え、語彙を増やす)	
評価方法	(知) 考査・課題・小テスト等 考査=7割、小テスト=3割(文法や句法、古文単語) (思) 考査・ノート・課題等 考査=5割、ノート=1割、課題=4割(週末課題) (学) 小テスト・課題や授業への取り組み状況等 考査=1割、ノート=5割(授業のノート)、課題4割(週末課題)	

教科	国語	科目（単位数）	言語文化(3)	学年	1	類型	全クラス
学習目標	<p>(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・（知識及び技能）</p> <p>(2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のもの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・（思考力、判断力、表現力）</p> <p>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・（学びに向かう力、人間性等）</p>						
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
年度初～1学期中間考査	言語文化・古文編 説話/児のそら寝（宇治拾遺物語）		<p>(知) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のまじりや、古典特有の表現などについて理解する。</p> <p>(思) 古に親しみ、文章の登場人物や心情に即して読み味わうことができる。</p> <p>(学) 積極的に児と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。</p>				
	言語文化・漢文編 訓読の基本		<p>(知) 漢文訓読のまじりや基本的な句法への理解を深める。</p> <p>(思) 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p> <p>(学) 進んで漢文の特色や訓読のまじりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持つようとしている。</p>				
1学期中間～期末考査	言語文化・古文編 随筆(一)丹波に出雲といふ所あり（徒然草）		<p>(知) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のまじりや、古典特有の表現などについて理解している。</p> <p>(思) 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。作者のもの見方、感じ方、考え方を理解し、『徒然草』の魅力をとらえる。</p> <p>(学) 文章の構成上、最後の一文がどのような効果を上げているかについて進んで考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p>				
	言語文化・漢文編 故事成語(一)三編/矛盾、寓話(一)三編/塞翁馬		<p>(知) 漢文訓読のまじりや基本的な句法への理解を深める。</p> <p>(思) 故事成語の意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。</p> <p>(学) 進んで漢文の特色や訓読のまじりを理解し、学習課題に沿って、故事成語の元になった話を読み、故事成語の果たす役割について考えようとしている。</p>				
	言語文化・現代文編 小説1/羅生門（芥川龍之介）		<p>(知) 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。</p> <p>(思) 文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わい、小説の主題を考えることができる。</p> <p>(学) 積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。</p>				
1学期期末後	言語文化・古文編 歌物語/芥川（伊勢物語）		<p>(知) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のまじりや、古典特有の表現などについて理解している。文章中の和歌について修辞技巧と内容を整理する。</p> <p>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基底的に捉えている。</p> <p>(学) 粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとしている。</p>				
2学期はじめ～中間考査まで	言語文化・漢文編 「史話」 〔管仲之交「十八史略」〕		<p>(知) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。</p> <p>(思) 作品の文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え内容を解釈しようとしている。</p> <p>(学) 進んで話の展開や登場人物の言動を読み取り、史話のおもしろさを味わおうとしている。</p>				
	言語文化・古文編 随筆/ありがたきもの（枕草子）		<p>(知) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のまじりや訓読のまじりや、古典特有の表現などについて理解している。</p> <p>(思) 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>(学) 進んで自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、作者のもの見方や感じ方、考え方を捉えたり、自分と関連付けて考えたりしようとしている。</p>				
2学期中間～期末考査	言語文化・漢文編 「絶句と律詩」		<p>(知) 漢詩のまじりについて理解することができる。</p> <p>(思) 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。</p> <p>(学) 作者の深き感情や自然描写の豊かさを読み味わい、感想を表現することができる。</p>				
	言語文化・古文編 日記/馬のはなむけ（土佐日記）		<p>(知) 執筆の背景や後世への影響について理解することができる。</p> <p>(思) 文章中の言葉遊びや登場人物の心情について説明する。</p> <p>(学) 旧暦や古時刻、旧国名、日記について、旅のあり方などの古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深めようとしている。</p>				
	言語文化・近現代編 近代小説(二)/富岳百景		<p>(知) 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。</p> <p>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基底的に捉えている。</p> <p>(学) 進んで本文の内容や構成、展開などをとらえ、学習課題に沿って、主人公の心情の変化と、富士山や周囲の人々についての描写に注意して、小説を読み味わおうとしている。</p>				
2学期期末後	言語文化・近現代編 詩歌/ I was born/ ころの 証一短歌抄/秋の航一俳句抄		<p>(知) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>(思) 詩や短歌、俳句における表現上の効果を考える。「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>(学) 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。</p>				
3学期はじめ～3学期学年末考査	言語文化・古文編 軍記物語/木曾の最期（平家物語）		<p>(知) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のまじりや訓読のまじりや、古典特有の表現などについて理解している。</p> <p>(思) 「軍記物語」の特徴を味わいながら音読をすることができる。</p> <p>(学) 「義仲・巴の愛情」「義仲・兼平の愛情」の違いについて粘り強く差異を抽出し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。</p>				
	言語文化・漢文編 文章「雑説」		<p>(知) 本文の読解のために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。部分否定や受け身など多くの句法が出てくるので、その理</p> <p>(思) 叙述に添って本文を読解することができる。</p> <p>(学) 末尾の作者の問いかけから、その主題を読み取り、現代の社会に引きつけて考えることができる。</p>				
3学期学年末考査～年度末	言語文化・漢文編 「思想」（論語） 〔探究の扉 漢文の注釈〕		<p>(知) 代表的な章句を読み味わい、儒家思想への理解を深める。感嘆や疑問の句法などを理解する。</p> <p>(思) 孔子の理想とした生き方や人との関わり方などを本文をもとに考えようとしている。</p> <p>(学) 儒家思想だけではなく諸子百家について基本的な知識を身につけようとしている。</p>				
	言語文化・古文編 紀行文「奥の細道」		<p>(知) 作者の活躍した時代やその人生について理解する。地の文と各句の意味を理解している。</p> <p>(思) 自然の営みと人間の営みについて、作者が抱いた心情を想像し、構成や表現の巧みさについて考えている。</p> <p>(学) 作者の工夫を凝らした表現や構成について、考えたり話し合ったりしながら俳諧紀行文の妙味を鑑賞しようとしている。</p>				
使用教材（教科書・副教材）	<p>教科書：『精選言語文化』（東京書籍）、副教材：『読解を大切に体系古典文法九訂版』（教研出版）、「漢文必携5訂版」（桐原書店）、「新訂総合国語便覧」（第一学習社）、「Key&amp;Pointみるみる覚える古文単語300+30」（いっずな書店）、「新訂版力をつける古典ステップ1」（教研出版）</p> <p>「四訂版体系古典文法準拠ノート」（教研出版）、「改訂版体系漢文準拠ノート」（教研出版）、「グランステップ現代文1、5」（高文出版）</p>						
学習方法	<p>予習・授業・復習のサイクルの徹底。 （予習で、古文単語を辞書で引き、現代語訳をしる。授業で古典文法、漢文句法、現代語訳の仕方等を理解し、覚える。）</p>						
評価方法	<p>(知) 考査7割・課題・小テスト3割 (思) 考査5割・ノート1割・課題等4割 (学) 考査1割・ノート5割、小テスト・課題や授業への取組み状況等4割</p>						

教科	公民	科目(単位数)	公共(2)	学年	1	類型	全クラス	
学習目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。							
評価基準	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に向かう態度		①定期考査の知識・技能：7割 ②小テスト：3割 ①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②ワークシート：2割 ③レポート課題：2割 ①定期考査：2割 ②レポート課題・ワークシート：5割 ③提出物(プリント、課題)：3割					
期間	単元(学習内容)		学習の到達目標					
～1学期	第1章 公共的な空間をつくる私たち	第1節 青年期と自己形成	【知】青年期の意義と課題を心理学者の思想に着目しながら理解している。 【思】青年期の意義と課題について、心理学者の思想と現在の自分を関連付けながら自分事として考察し表現することができる。 【感】青年期の意義と課題を心理学者の思想に着目しながら考察しようとしている。					
	第1章 公共的な空間をつくる私たち	第2節 人間としての自覚	【知】東洋と西洋の先哲の思想や世界三大宗教の特徴を理解している。 【思】東洋と西洋の先哲の思想や世界三大宗教の特徴を通して、よく生きるとはどういうことが自分なりに考察し表現することができる。 【感】東洋と西洋の先哲の思想を通して、よく生きるとはどういうことが考察しようとしている。					
	第1章 公共的な空間をつくる私たち	第3節 日本人としての自覚	【知】日本の先哲の思想家の思想を通して、日本思想の特徴を理解することができる。 【思】学習した日本の先哲の思想家の思想を活用して、日本思想の特徴を説明することができる。 【感】日本の先哲の思想家の思想を通して、日本人としての自覚を高めようとしている。					
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	第1節 西洋近代の思想	【知】西洋の先哲の思想家の思想を通して、西洋近代の思想の特徴を理解することができる。 【思】西洋の先哲の思想家の思想を活用して、西洋近代の思想の特徴を説明し、1人の人間としていかに生きるべきか自分なりに考察し表現することができる。 【感】西洋の先哲の思想家の思想を通して、人間の尊厳と幸福について考察しようとしている。					
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	第2節 現代の諸課題と倫理	【知】地球環境・情報化の進展・生命倫理の観点から、現代の諸課題を理解することができる。 【思】地球環境・情報化の進展・生命倫理の観点から、現代の諸課題を分析し、自分なりの解決策を考察し表現することができる。 【感】地球環境・情報化の進展・生命倫理の観点から、現代の諸課題を分析し、自分なりの解決策を考察しようとしている。					
	第3章 公共的な空間における基本原理	第1節 民主社会の基本原則	【知】民主政治の基本原則とは何かを理解することができる。 【思】学習した民主政治の基本原則を活用して、民主政治とはどのような政治か考察し、表現することができる。 【感】学習した民主政治の基本原則を活用して、各国の政治体制を考察したり、ニュースや新聞などの実社会の社会的事象を分析しようとしている。					
～2学期 中間考査	第3章 公共的な空間における基本原理	第2節 日本社会の基本原則	【知】日本国憲法の基本原則と保障されている基本的人権について理解することができる。 【思】判例を通して日本国憲法の基本原則や基本的人権の特徴について考察し、表現することができる。 【感】日本国憲法の学習を通して、基本原則や基本的人権の規定を尊重し擁護しようとしている。					
	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	第1節 日本の政治機構	【知】日本の政治機構の特徴について国会・内閣・裁判所に着目し、理解することができる。 【思】日本の政治機構の特徴について、国会・内閣・裁判所に着目し、考察することができる。 【感】学習した日本の政治機構の特徴を活用して、ニュースや新聞などの実社会の社会的事象を分析しようとしている。					
	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	第2節 政治参加と民主政治の課題	【知】日本の選挙制度・政治的知識や地方自治の現状や課題について理解することができる。 【思】日本の選挙制度や地方自治の現状や課題を考察し、表現することができる。 【感】選挙や地方自治について関心を高め、将来の主権者として積極的に社会参加しようとしている。					
	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	第1節 経済のしくみと市場機構	【知】市場経済の特徴と企業の働きと役割について理解することができる。 【思】市場経済の特徴と課題を価格の自動調節機能に着目して考察し、表現することができる。 【感】学習した市場経済の仕組みや企業の働きや役割を通して、ニュースや新聞などの実社会の社会的事象を分析しようとしている。					
	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	第2節 財政と金融	【知】国民所得の考え方を理解する。そして、国民所得を増加させ経済成長を促すために必要な財政政策と金融政策の特徴を理解することができる。 【思】対立・不況それぞれにおいてどのような財政政策・金融政策をすべきなのかを考察し、表現することができる。 【感】学習した財政政策・金融政策を活用して、ニュースや新聞などの実社会の社会的事象がなぜ実施されているのかを理解しようとしている。					
	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	第3節 日本経済の発展と変化	【知】産業構造の変化に着目しながら、日本経済の発展と変化について理解することができる。 【思】産業構造の変化に着目しながら、日本経済の発展と変化について考察し、表現することができる。 【感】産業構造の変化に着目しながら、ニュースや新聞などの実社会の社会的事象を捉えようとしている。					
	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	第4節 豊かな生活と福祉の実現	【知】私法や消費者・労働問題、社会保障などを法的に保障されている権利と関連付けながら理解することができる。 【思】経済社会において望ましい契約とは何かを消費者や労働者などの多様な立場に立って考察し、表現することができる。 【感】経済社会において望ましい契約とは何かを消費者や労働者などの多様な立場に立って考察しようとしている。					
	第6章 国際社会の動向と日本の役割	第1節 国際政治の動向	【知】国際法や国際連合の意義と課題、第二次世界大戦以降の国際情勢を理解することができる。 【思】学習した知識を活用し、国際社会の諸課題の背景にある原因について考察し、表現しようとしている。 【感】SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて自分にできることを実践するなど、国際社会の問題に関して当事者意識を持って取り組もうとしている。					
	第6章 国際社会の動向と日本の役割	第2節 国際政治の課題と日本の役割	【知】日本の防衛政策と安全保障体制を理解することができる。 【思】防衛政策と安全保障体制の観点から、国際社会において日本の果たすべき役割について考察し、表現することができる。 【感】防衛政策と安全保障体制の観点から、国際社会において日本の果たすべき役割について実社会の社会的事象と関連付けながら考察しようとしている。					
	第6章 国際社会の動向と日本の役割	第3節 国際経済の動向と国際協力	【知】貿易理論や外国為替・国際収支の仕組み、戦後の国際経済・貿易体制、地域経済統合などを通して、国際経済のしくみを理解することができる。 【思】学習した国際経済の仕組みを活用して、現代の国際経済の諸課題の背景にある原因とその改善策を考察し、表現することができる。					
	～2学期 期末考査	第3章 公共的な空間における基本原理	第2節 日本社会の基本原則	【知】日本国憲法の基本原則とは何かを理解することができる。 【思】学習した日本国憲法の基本原則を活用して、各人の意見や利害の対立を公平・公正に調整するための原理を考察し表現することができる。 【感】公共的な空間を作る上で、日本国憲法の基本原則が必要であることと、公共的な空間における課題を基本原則を用いて考察しようとしている。				
		第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	第1節 日本の政治機構	【知】日本の統治機構の特徴とは何かを理解することができる。 【思】行政機能拡大の是非について主体的に考察できる。 【感】模範裁判などを通して、司法に関心をもち、裁判員制度の意義をふまへ積極的に参画する自覚を高ようとしている。 【思】学習した国際経済の仕組みを活用して、現代の国際経済の諸課題の背景にある原因とその改善策を考察しようとしている。				
第4章 現代の民主政治と政治参加の意義		第2節 政治参加と民主政治の課題	【知】選挙の仕組みや政党の役割、地方自治の現状と課題が理解できている。 【思】選挙制度や政党政治で学習してことを活用して、日本の政治について課題を発見し、解決策を考察し、表現することができる。 【感】模擬投票や政党マッチングなどの実施により、政党や選挙を身近に捉えようとしている。					
第6章 国際社会の動向と日本の役割		第1節 国際政治の動向	【知】国際法の意義や国際連合などの国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 【思】国際連合の現状と課題について考察することで、国際社会で平和と安全を維持するため何が有効なのか、自らの考えを考察し表現することができる。 【感】国際社会で平和と安全を維持するために、国際連合などの国際紛争解決機関の効果的な在り方を考察しようとしている。					
～3学期 学年末考査	第6章 国際社会の動向と日本の役割	第2節 国際政治の課題と日本の役割	【知】国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 【思】現代の世界の紛争や人権問題について自分なりの意見を考察し、他者に表現することができる。 【感】国際社会の中で日本がどのような国際貢献を行うべきか、自分なりの考えを考察しようとしている。					
	～年度末	第2節 国際政治の課題と日本の役割	【知】国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 【思】現代の世界の紛争や人権問題について自分なりの意見を考察し、他者に表現することができる。 【感】国際社会の中で日本がどのような国際貢献を行うべきか、自分なりの考えを考察しようとしている。					
使用教材(教科書、副教材)	教科書：「公共」(数研出版)、副教材：「最新図説公共」(浜島書店)、「公共整理ノート」(数研出版)							
学習方法	教科書準拠ノートを通した予習(基礎的知識の確認)・授業・復習のサイクル。(教科書や問題集の基本問題を自分で解けるようになるまで取り組む。)							
評価方法	(知) 定期考査・小テスト (思) 定期考査・ワークシート・課題レポート (感) 定期考査・課題と授業への取り組み状況(考査・ワークシート・課題への取り組み状況・対話学習への取り組み状況)							

令和5年度（2023年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	数学	科目（単位数）	数学Ⅰ(3)、数学A(1)、数学Ⅱ(1)	学年	1	類型	全クラス
学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、次のような数学的に考える資質・能力を身に付ける。 (1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力 (3) 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力 (4) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力 (5) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度 (6) 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度						
評価基準	知識・技能	① 数Ⅰ 第1章 数と式 ② 数Ⅰ 第3章 2次関数 ③ 数Ⅰ 第2章 集合と命題 ④ 数A 第1章 場合の数と確率					
	思考・判断・表現	① 数Ⅰ 第1章 数と式 ② 数Ⅰ 第3章 2次関数 ③ 数Ⅰ 第2章 集合と命題 ④ 数A 第1章 場合の数と確率					
	主体的に学習に向かう態度	① 数Ⅰ 第1章 数と式 ② 数Ⅰ 第3章 2次関数 ③ 数Ⅰ 第2章 集合と命題 ④ 数A 第1章 場合の数と確率					
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
年度初～1学期中間	数Ⅰ 第1章 数と式	(知) 数を実数まで拡張する意義、不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。 (思) 不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察する。 (学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。					
		数Ⅰ 第3章 2次関数	(知) 二次関数の値の変化やグラフの特徴を理解する。 (思) 二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。				
1学期期末～2学期中間	数Ⅰ 第2章 集合と命題		(知) 集合と命題に関する基本的な概念について理解する。 (思) 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明できる。 (学) 粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。				
		数A 第1章 場合の数と確率	(知) 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 (思) 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりする。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。				
夏課外	数A 第2章 図形の性質		夏休みの課外中に実施				
2学期中間～期末	数Ⅰ 第5章 データの分析	(知) 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解する。 (思) 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する。 (学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。					
		数Ⅰ 第4章 図形の計量	(知) 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解する。三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 (思) 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。				
2学期期末～3学期学年末	数Ⅱ 第4章 三角関数		(知) 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方、三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 (思) 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察する。 (学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。				
		数Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数	(知) 指数関数の値の変化やグラフの特徴や対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算ができる。 (思) 指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。				
使用教材 (教科書・副教材)	① 教科書 : 「高等学校数学Ⅰ・Ⅱ・A」(数研出版) ② 教科書理解補助参考書 : 「数学Ⅰ・A および Ⅱ・B 入門問題精講」(旺文社) ③ 反復練習用問題集 : 「4プロセス 数学Ⅰ+A および Ⅱ+B」(数研出版) ④ 網羅系参考書・問題集 : 「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A および Ⅱ+B」(数研出版) ※デジタル版も含む ※②③④のⅠAについてはGW明けに配付予定。Ⅱ・Bについては秋以降に配付予定。ですので自分で購入しないでください。						
学習方法	(1) 教科書を読み、定義を理解するために具体例に触れる。そのときに、書いて数式や記号に慣れる。最初は、写して手で慣れることも大切。①②を活用 (2) 定理や公式の証明を理解し、何も見ずに証明を再現できるようになる。最初は、写してもよい。 ※(2)は後回しにしてもよい。①②を活用 (3) 定理や公式の使い方を身に付けるために、問題を解く。速く正確に解けるように反復練習をする。 ※問題を解くために、定理や公式を覚えるわけではない。③を活用 (4) 定理や公式を活用することで解決できる応用問題を解く。解法を理解したうえで、解法のポイントとなる箇所を覚えていく。①④を活用 (5) 定理や公式など複数のことを使い、試行錯誤をしないと解けないような発展問題に取り組み、総合的な数学の力や、思考力を培う。④を活用 ④にはすべての例題に解説動画がありますので、活用してください。 (6) 教師・友人への質問や対話を通じて理解が深まってきます。1人で考えることも大切ですが、積極的にコミュニケーションをとりましょう。						
評価方法	(知) ① 数Ⅰ 第1章 数と式 ② 数Ⅰ 第3章 2次関数 ③ 数Ⅰ 第2章 集合と命題 ④ 数A 第1章 場合の数と確率 (思) ① 数Ⅰ 第1章 数と式 ② 数Ⅰ 第3章 2次関数 ③ 数Ⅰ 第2章 集合と命題 ④ 数A 第1章 場合の数と確率 (学) ① 数Ⅰ 第1章 数と式 ② 数Ⅰ 第3章 2次関数 ③ 数Ⅰ 第2章 集合と命題 ④ 数A 第1章 場合の数と確率						

令和4年度（2022年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	科学と人間生活 物理分野（1）	学年	1	類型	全クラス
学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：8割 ②小テスト：2割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：8割 ②小テスト：2割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：2割 ②レポート課題：8割					

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標
1学期	地学分野	(知) 自然の景観や災害及び太陽系における地球の動きを理解する。 (思) 地形と災害の関係や地球の自転・公転による天体の運動について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。
	物理分野 光の色・光の直進と反射・ 光の屈折と全反射	(知) 光の色と波長の関係や光の伝わり方について理解する。 (思) 光の進路の規則性について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。
	物理分野 光の分散と散乱・光の回折 と干渉	(知) 光の分散と散乱・光の回折と干渉について理解する。 (思) 光の分散と散乱・光の回折と干渉を光波の性質に関連付けて考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。
	物理分野 電磁波・電磁波の利用・	(知) 電磁波の性質とその利用について理解する。 (思) 電磁波が情報やエネルギーを運ぶことについて考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。
	物理分野 温度と熱運動・熱容量・比 熱・熱の伝わり方	(知) 原子や分子の熱運動と温度の関係を定性的に理解する。 (思) 熱の移動の実験から熱量の保存について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。
	物理分野 仕事や電流と熱の発生・エネ ルギーの移り変わり	(知) 仕事とエネルギーについて理解する。 (思) 観察、実験などを通して、様々な物理現象とエネルギーの利用について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。
使用教材 (教科書・ 副教材)	教科書：「科学と人間生活」（数研出版）	
学習方法	授業・復習を中心に行う。	

令和5年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目(単位数)	科学と人間生活(2)	学年	1	類型	全クラス
学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。 (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解と、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能 (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度						
評価基準	知識・技能	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	思考・判断・表現	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
～1学期 中間調査	地学分野	(知) 自然の景観や災害及び太陽系における地球の動きを理解する。 (思) 地形と災害の関係や地球の自転・公転による天体の運動について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
	生物分野 体液とそのはたらき	(知) 体液のはたらきや血液の循環について理解する。 (思) 体内環境を一定に保つために循環系がどのようなはたらきを担っているのか考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～1学期 期末調査	生物分野 血糖濃度の調節	(知) 血糖濃度の調節に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。 (思) 血糖濃度の調節のしくみを基に糖尿病について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
	生物分野 免疫	(知) 免疫とそれにかかわる細胞のはたらきについて理解する。 (思) 免疫のしくみを利用したインフルエンザの予防接種や血清療法について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～2学期 期末調査	生物分野 微生物とその利用	(知) 呼吸、発酵の過程と微生物の応用例について理解する。 (思) 呼吸、発酵の化学反応に関する計算問題を解くことができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～3学期 学年末調査	生物分野 顕微鏡の基本操作	(知) 顕微鏡の基本操作やマイクロメーターを用いた測定方法について理解する。 (思) 顕微鏡やマイクロメーターを使用して適切に実験観察を行うことができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～年度末	生態系の成り立ち	(知) 生態系の成り立ちや生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。 (思) 科学的な知識を基に環境問題について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「科学と人間生活」(数研出版)						
学習方法	授業・復習を中心に行う。 授業は週1時間のため、確実に前時の復習をして授業に臨むこと。						
評価方法	(知) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割						

教科	理科	科目(単位数)	化学基礎(2)	学年	1	類型	全クラス	
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力と態度を身につける。							
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割 ②小テスト：2割 ③各課題：2割						
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②小テスト・ワークシート：2割 ③各課題：2割						
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割 ②小テスト・ワークシート：3割 ③各課題：3割						
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標						
1 学期	1編1章  化学とは何か	<p>【知】 化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思】 化学の特徴について、問題を見いだし見直しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【態】 化学の特徴に関する事象・現象について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>						
	1編2章  物質の成分と構成元素	<p>【知】 化学と物質についての実験などを通して、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思】 物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について、問題を見いだし見直しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【態】 化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態に関する事象・現象について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>						
	2編1章  原子の構造と元素の周期表	<p>【知】 物質の構成粒子についての実験などを通して、原子の構造、電子配置と周期表の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思】 原子の構造、電子配置と周期表について、問題を見いだし見直しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【態】 原子の構造、電子配置と周期表に関する事象・現象について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>						
	2編2章  化学結合	<p>【知】 物質と化学結合についての実験などを通して、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思】 イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合について、問題を見いだし見直しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【態】 イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合に関する事象・現象について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>						
	2 学期	3編1章  物質質量と化学反応式	<p>【知】 物質質量と化学反応式についての実験などを通して、物質質量、化学反応式の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思】 物質質量、化学反応式について、問題を見いだし見直しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【態】 物質質量、化学反応式について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>					
		3編2章  酸と塩基	<p>【知】 化学反応についての実験などを通して、酸・塩基と中和の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思】 酸・塩基と中和について、問題を見いだし見直しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【態】 酸・塩基と中和について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>					
3 学期		3編3章  酸化還元反応	<p>【知】 化学反応についての実験などを通して、酸化と還元の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思】 酸化と還元について、問題を見いだし見直しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【態】 酸化と還元について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>					
	使用教材(教科書・副教材)	教科書：「化学基礎」（東京書籍）、副教材：「リードライトノート化学基礎(数研出版)」						
学習方法	授業・復習のサイクル(教科書や問題集の基本問題を自分で解けるようになるまで取り組む。)							
評価方法	(知) 定期考査・確認テスト・章末テスト (思) 定期考査・実験プリント (レポート) (態) 確認テスト・課題や授業への取り組み状況等							



教科	体育	科目（単位数）	保健（1）	学年	1	類型	全クラス
学習目標	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力の育成を目指す。						
評価内容	知識・技能	①定期考査の知識：7割 ②提出物：3割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：5割 ②小テスト、課題研究の提出による思考・判断・表現：3割 ③提出物：2割					
	主体的に学習に向かう態度	①観察：7割 ②提出物：3割					
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
1 学 期	国民の健康課題	【知】国民の健康課題について、我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して理解できるようにする。 【思】現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、それを話したり、書き出すことができるようにする。					
	健康の考え方と成り立ち	【知】健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて理解できるようにする。 【思】国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理し、言ったり書き出したりできるようにする。					
	健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり	【知】健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることを理解できるようにする。 【思】国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理し、言ったり書き出したりできるようにする。					
	現代の感染症とその予防	【知】感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。 【思】感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用していることを言ったり、書き出したりできるようにする。					
2 学 期 ・ 3 学 期	生活習慣病などの予防と回復	【知】がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であることを、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。 【思】生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理することを言ったり、書き出したりできるようにする。					
	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	【知】喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることを理解している。また、これらの健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることを理解できるようにする。 【思】喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価できけるようにする。					
	精神疾患の予防と回復	【知】精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることを理解できるようにする。 【思】精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理できるようにする。					
使用教材 (教科書・ 副教材)	教科書：現代保健体育（大修館）、副教材：現代保健体育ノート						

令和5年度（2023年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	芸術	科目（単位数）	音楽Ⅰ（2）	学年	1	類型	全クラス
----	----	---------	--------	----	---	----	------

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。
------	--

評価基準	知識・技能	①実技テスト：約7割 ②小テスト：約3割
	思考・判断・表現	①実技テスト：約7割 ②小テスト：約3割
	主体的に学習に向かう態度	①小テスト：約5割 ②活動の様子、提出、出席状況など：約5割

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標
年度初～1学期中間 考査	【歌唱】 歌声づくり	(知) ・姿勢や呼吸法、発声法に気をつけて楽曲を歌う。
	【歌唱】 混声合唱の楽しみ①	(知) ・特徴を感じ取り、イメージを持って歌う。 (思) ・合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容や曲想を生かして声部の役割を意識して歌う。
	【器楽】 ギター演奏の楽しみ 【鑑賞】 鑑賞の楽しみ	(知) ・ギターの音色や奏法の特徴を生かして演奏する。 (思) ・ギターの美しい音色や様々な奏法を鑑賞したりする。
～2学期中間 考査	【鑑賞】 鑑賞の楽しみ	(知) ・全体の響きに調和させて歌唱している。 (思) ・表現を工夫して歌唱している。 (学) ・アンサンブルの喜びを味わって歌唱している。
	【歌唱】 混声合唱の楽しみ②	(知) ・姿勢や呼吸法、発声法に気をつけて楽曲を歌う。 (知) ・特徴を感じ取り、イメージを持って歌う。 (思) ・合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容や曲想を生かして声部の役割を意識して歌う。
	【器楽・歌唱】 三線で弾き語り に挑戦しよう	(知) ・三線の正しい姿勢、持ち方、弾き方で弾く。 (知) ・三線の音色や奏法を生かし、表現を工夫して演奏する。 (思) ・楽器誕生の歴史を理解し、歌いながら弾けるようにする。
3学期 学年末考査 ～年度末	【歌唱】 独唱に挑戦しよう 【鑑賞】 音楽をとおして世界探訪 をしよう	(知) ・曲想を感じ取り、発声やフレーズなどを工夫して歌唱する。 (知) ・楽曲にふさわしい表現を追求して歌唱する。 (思) ・世界各地の民族音楽の特徴をとらえながら、世界の多様な音楽美の表現を感じ取って鑑賞する。 (学) ・漢字の書の学習を通して自らの創造的な力を高めようとしている。自らの感性を高め、漢字の書の

使用教材 (教科書・ 副教材)	教科書：「音楽ⅠTutti+」（教育出版）
学習方法	個人またはグループワーク
評価方法	学期末成績＝授業内テスト（80％）＋平常点（20％） 授業内テスト：歌唱テスト・器楽テスト 平常点：授業参加度、発問、学習プリント、課題提出

令和5年度（2023年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	芸術	科目（単位数）	2	学年	1	類型	全クラス
評価基準	知識・技能	①ワークシート（知識）：約3割 ②作品（技能）：約7割					
	思考・判断・表現	①ワークシート（鑑賞）：約4割 ②ワークシート（表現の工夫）：約6割					
	主体的に学習に向かう態度	①ワークシート（毎回の記録）：約5割 ②活動の様子、提出状況など：約5割					
学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成すること。						
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標					
年度初～1学期 中間考査	・オリエンテーション ・教科書の作品鑑賞 ・身近なもの、自分の手をデッサンする	(知) 先輩の作品を鑑賞し意欲を持っている (思) 美術活動に意欲を持たせる (学) 学習態度について理解する					
1学期中間～期末考査	・動物をデッサンする ・写真集を見て行う	(知) 自分の手を良く見つめて描いている 自分の手がいかに大切に理解している (思) 鉛筆の使い方を身に付けている (学) 主体的に表現しようとしている					
1学期期末～2学期 中間考査	・静物の油絵を描こう ・下絵を描こう ・彩色する	(知) 初めての油絵に意欲をもって取り組んでいる (思) 基本的な油絵の描き方を学ぶ力を身に付けている (学) 先輩の作品を参考にして主体的に取り組んでいる					
2学期中間～期末考査	・油絵の制作 ・背景の処理	(知) 油絵を描く手順をしっかりと理解する 創造力をつけていく (思) 表現力を高めるため、混色の作り方に意欲をもって取り組んでいる (学) 文化祭や地域の展示会に作品を展示する意欲をもっている					
2学期期末～3学期 学年末考査	・美術作品の鑑賞 ・ペーパーテスト	(知) 校内文化祭に作品を展示し、創作意欲を高める 作品を鑑賞する中で表現力を養う (思) 油絵の作品を制作する喜びを知る (学) アート作品を作る創造力を身に付けている (知) 創造力・表現力・鑑賞力を見る					
3学期 学年末考査～年度末	・工芸作品の絵付け ・ペーパーテスト	(知) カップのデザインを考え、技法を学ぶ (思) 創造的な美しさや楽しさを考える (学) 美術文化を親しみ心豊かな心情を養う (知) 創造力・表現力・鑑賞力を見る 美術の授業まとめ					
使用教材 (教科書・副教材)	美術1（光村）						
学習方法	個人またはグループワーク						
評価方法	作品提出、レポート、作業の進行、授業態度、技法、興味						

令和5年度（2023年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス							
教科	芸術	科目（単位数）	書道Ⅰ（2）	学年	1	類型	全クラス
学習目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。						
評価基準	知識・技能	①ワークシート（知識）：約3割 ②作品（技能）：約7割					
	思考・判断・表現	①ワークシート（鑑賞）：約4割 ②ワークシート（表現の工夫）：約6割					
	主体的に学習に向かう態度	①ワークシート（毎回の記録）：約5割 ②活動の様子、提出状況など：約5割					
1 学期	オリエンテーション 書写から書道へ 用具用材の使用法 基本姿勢について	(学) 自らの感性を高め、書の伝統と文化に親しもうとしている。					
	漢字の書 漢字の変遷 楷書古典の鑑賞	(知) (知識) 日本及び中国などの文字と書の伝統と文化、書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。					
		(思) 漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。					
		(学) 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。					
	楷書古典の臨書 ①九成宮醜泉銘(初唐の三大家)	(知) (知識) 書体や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統と文化について理解する。					
		(知) (技能) 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。					
		(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。					
	②顔氏家廟碑	(知) (知識) 書体や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統と文化について理解する。					
		(知) (技能) 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。					
		(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。					
	③牛嶽造像記	(知) (知識) 書体や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統と文化について理解する。					
		(知) (技能) 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。					
(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。							
2 学期	文化祭の作品制作 楷書の創作 (刻字の制作)	(知) (知識) 書体や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統と文化について理解する。					
		(知) (技能) 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。					
		(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。					
	漢字の書 行書古典の臨書(蘭亭序)	(知) (知識) 書体や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統と文化について理解する。					
		(知) (技能) 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。					
		(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。					
	仮名の書の鑑賞 仮名の成立 仮名の鑑賞	(知) (知識) 日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。					
		(思) 仮名の古筆の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。					
		(学) 主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。					
	仮名の書の臨書 ①いろは(単体) ②三色紙(散らし書き)	(知) (知識) 線質や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本の書の伝統と文化について理解する。					
		(知) (技能) 古筆に基づく基本的な用筆・運筆、線質を生かした表現をするための技能を身に付ける。					
		(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古筆や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。					
仮名の書 仮名の書の創作	(知) (知識) 線質や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本の書の伝統と文化について理解する。						
	(知) (技能) 古筆に基づく基本的な用筆・運筆、連綿と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。						
	(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古筆や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。						
漢字仮名交じりの書の鑑賞	(知) (知識) 線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の成立について理解する。						
	(思) 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えることができる。						
	(学) 主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い学習活動に取り組もうとしている。						
漢字仮名交じりの書の創作	(知) (知識) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。						
	(知) (技能) 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。						
	(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、意図に即した表現や全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。						
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「書Ⅰ」(光村図書)、chromebook						
	学習方法	授業、グループワーク、実技					
評価方法	(知) 作品、ワークシートなど (思) ワークシート(鑑賞)、ワークシート(表現の工夫)など (学) ワークシート(毎回の記録)、活動の様子、提出状況など						

教科	理科	科目（単位数）	英語コミュニケーションⅠ（3）	学年	1	類型	全クラス
学習目標	外国語の習得を通して生徒の人的成長を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。 基礎・基本事項を大切に、確かな読解力・表現力を身につける。						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割 ②小テスト：2割 ③各課題・提出物：3割 ④パフォーマンステスト：1割					

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標
1学期	Lesson 1: Enjoy Your Journey!	【知】不定詞や動名詞の意味や基本構造について理解できる。 【思】高校生活における目標について書かれた英文を理解し、自分の高校生活における目標について書くことができる。 【学】高校生活における目標について書かれた英文を読み、自分の目標についてペアで伝え合うことができる。
	Lesson 2: Curry Travels around the World	【知】分詞の後置修飾、現在完了の意味や基本構造について理解できる。 【思】カレーの歴史や発展について書かれた英文を理解し、自分の食べ物の食材や調理法について書く事ができる。 【学】カレー料理の好みについて、簡単な語句を使って説明しようとする。
	Lesson 3: School Uniforms	【知】受動態の意味や構造について理解できる。 【思】学校の制服の着用について賛成か反対か、自分の意見を伝えることができる。 【学】自分の学校を紹介するために、学期や学校行事等の情報について書いて伝えようとする。
	Lesson 4: Eco-Tour on Yakushima	【知】受動態や関係副詞の意味や基本構造について理解できる。 【思】屋久島でのエコツアーについて書かれた英文を理解し、自分が参加してみたいエコツアーについてやり取りすることができる。 【学】外国人観光客におすすめの日本の世界遺産を紹介するために、必要な情報を書いて伝えようとする。
2学期	Lesson 5: Bailey the Facility Dog	【知】過去完了形、不定詞と原形不定詞、不定詞の意味上の主語の意味や構造について理解できる。 【思】ファシリテイドッグについて書かれた英文を読み、必要な情報を読み取ることができる。 【学】ペットを飼うことについて、自分の考えを書いて伝えようとする。
	Lesson 6: Communication without Words	【知】対比や難易、繰り返しを避ける表現、分詞構文の意味や構造について理解できる。 【思】非言語コミュニケーションについて必要な情報を読み取り、概要を捉えることができる。 【学】日常で使用するジェスチャーと使用する理由について、自分の考えを話して伝えようとする。
	Lesson 7: Dear World: Bana's War	【知】関係代名詞の非限定用法、関係副詞の非限定用法の意味や構造について理解できる。 【思】社会問題を解決するために、どのようなSNSを活用するか、30語程度のパラグラフライティングができる。 【学】パナの平和への思いや、SNSを用いた活動についての英文を読み、パナの話について概要を捉えることができる。 【学】情報の入手手段としてインターネットを使うことについて賛成か、反対か、自分の意見を他者に話して伝えようとする。
	Lesson 8: The Best Education to Everyone, Everywhere	【知】部分否定や知覚動詞を使用した表現、目的を表す表現の意味や構造について理解できる。 【思】自分のキャリアプランについて、基本的な語句や文を使って50語程度のパラグラフライティングができる。 【学】職業選択や社会起業家についての英文を読み、社会起業家についての情報を読み取り、要点を把握できる。 【学】自分のキャリアプランについて、自分の考えや気持ちをグループ内で発表することができる。
3学期	Lesson 9: Space Elevator	【知】仮定法過去や倍数表現の意味や構造について理解できる。 【思】宇宙エレベーターについての英文を読み、必要な情報を読み取り、概要を把握できる。 【学】宇宙エレベーターで宇宙へ行けるとしたらどんなことをしたいか、自分の考えを書いて伝えようとする。
	Lesson 10: Friendship over Time	【知】仮定法過去完了の意味や構造について理解できる。 【思】日本とトルコの友好関係についての英文を読み、必要な情報を読み取り、話の概要を捉えることができる。 【学】自分だったらエルトゥールル号の乗組員のためにどのようなことをしたか、自分の考えを書いて伝えようとする。

使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「LANDMARK English CommunicationⅠ」（啓林館）、副教材：単語帳「Database4500」（桐原書店）、参考書「総合英語be」（いわずな書店）
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。
評価方法	(知) 考査・授業時の観察（ノート・レポート等）・スピーキングテスト、ライティングテスト (思) 考査・授業時の観察（ノート・レポート）・ディスカッション、ディベート (学) 考査・授業での観察（ノート・レポート等）・リスニングテスト

教科	理科	科目(単位数)	論理表現Ⅰ(2)	学年	1	類型	全クラス
学習目標	外国語の習得を通して生徒の人的成長を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。 基礎・基本事項を大切に、確かな読解力・表現力を身につける。						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：1割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②各課題・提出物：3割 ④パフォーマンステスト：1割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割 ②各課題・提出物：3割 ④パフォーマンステスト：3割					

期間	単元(学習内容)	学習の到達目標
1 学期	Lesson 1: Meeting People	【知】現在形や現在進行形の意味や働きについて理解することができる。 【思】自分や身近な人のことについて、現在形や現在進行形の表現を用いて、ペアで伝え合うことができる。 【学】自分や身近な人の習慣についての情報を書いて伝えようとする。
	Lesson 2: Holidays and Weekends	【知】過去形や過去進行形の意味や働きについて理解することができる。 【思】休日や週末にしたことについて、過去形や過去進行形の表現を用いて、ペアで伝え合うことができる。 【学】過去の出来事について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 3: Making Plans	【知】未来の表現の意味や働きを理解することができる。 【思】休日の予定について、未来の表現を用いてペアと情報のやり取りを行うことができる。 【学】休日の予定について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 4: Travel	【知】現在完了形の意味や働きについて理解することができる。 【思】旅行の経緯について、現在完了形を用いて、ペアで情報のやり取りを行うことができる。 【学】旅行の経緯について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 5: Study and Activities	【知】過去完了形の意味や働きについて理解することができる。 【思】達成した事柄について、過去完了形を用いて筋道を立てて書くことができる。 【学】達成した経緯についての情報を、他者に分かりやすく話して伝えようとする。
	Lesson 6: Food Culture	【知】可能や許可などを表わす助動詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】食事の習慣やマナーについて、可能や許可などを表わす助動詞を用いて、ペアで情報のやり取りを行うことができる。 【学】日本の習慣やマナーについての情報を、他者に分かりやすく話して伝えようとする。
	Lesson 7: School Life	【知】義務や確信などを表わす助動詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】学校の規則について、義務や確信を表わす助動詞を用いて、他者と情報や意見のやり取りを行うことができる。 【学】学校の規則についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 8: Daily Life	【知】意志や推量などを表わす助動詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】小・中学校のころによくしたことについて、意志や推量などを表わす助動詞を用いて、グループ内で発表することができる。 【学】小・中学校のころによくしたことについて、筋道を立てて書いて伝えようとする。
2 学期	Lesson 9: Transportation Issues	【知】受動態の意味や働きについて理解することができる。 【思】交通上の安全について、受動態を用いてペアで情報をやり取りすることができる。 【学】交通上の安全について、危険に思うことや改善したいことについて、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 10: Future Activities	【知】不定詞の名詞的用法の意味や働きについて理解することができる。 【思】将来してみたいことについて、不定詞の名詞的用法を用いて、発表することができる。 【学】自分の将来の夢について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 11: Staying Healthy	【知】不定詞の形容詞的用法、副詞的用法の意味や働きについて理解することができる。 【思】具合が悪くなった友だちへのアドバイスについて、不定詞の形容詞的用法を用いて伝え合うことができる。 校内放送で病気の予防の呼びかけをする状況で、不定詞の副詞的用法を用いて伝え合うことができる。 【学】健康について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 12: New Products	【知】使役動詞・知覚動詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】便利な電化製品について、使役動詞・知覚動詞の表現を用いて、やり取りすることができる。 【学】製品の広告文についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 13: Hobbies and Interests	【知】動名詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】趣味や興味について、動名詞の表現を用いて、グループ内で発表することができる。 【学】趣味や夢中になっていることについての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 14: The World of Nature	【知】分詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】与えられた状況について、分詞の表現を用いて伝え合うことができる。 【学】自然を楽しめる場所のレビューについて、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 15: Trouble and Accidents	【知】分詞構文の意味や働きについて理解することができる。 【思】ニュース記事の内容について、分詞構文などの表現を用いて、グループ内で発表することができる。 【学】最近のニュースや自分に起きた出来事についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 16: Inventions	【知】関係代名詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】おもしろい発明品について、関係代名詞などを用いて、グループ内で発表することができる。 【学】発明品とその機能についての情報を、筋道を立てて書いて伝えるようとする。
3 学期	Lesson 17: Cities and Towns	【知】関係副詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】都市や町の名所について、関係副詞などを用いて、ペアでやり取りすることができる。 【学】都市や町の名所についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 18: Living Environment	【知】比較表現の意味や働きを理解することができる。 【思】都会と地方のどちらがよいかについて、比較表現を用いて、グループ内で発表することができる。 【学】都会と地方のどちらがよいかについて、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 19: Social Problems	【知】最上級の意味や働きについて理解することができる。 【思】身近な社会問題について、最上級を用いてペアでやり取りすることができる。 【学】身近な社会問題への考えや解決策についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 20: Making a Wish	【知】仮定法の意味や働きについて理解することができる。 【思】現在や過去のことについての願望について、仮定法を用いてペアでやり取りすることができる。 【学】今年度の反省と来年度の抱負についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。

使用教材(教科書・副教材)	教科書: 『be English Logic and Expression Iclear』(いいずな書店)、副教材: 参考書『総合英語 be』(いいずな書店)、文法問題集『be English Grammar 26』(いいずな書店) リスニング教材『Hyper Listening』(桐原書店)、構文用問題集『英語構文ワーク』(数研出版)
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。
評価方法	(知) 考査・授業時の観察(ノート・レポート等)・スピーキングテスト、ライティングテスト (思) 考査・授業時の観察(ノート・レポート等)・ディスカッション、ディベート、スピーキングテスト、プレゼンテーション (学) 考査・授業での観察(ノート・レポート等)・リスニングテスト

教科	情報	科目（単位数）	情報Ⅰ（2）	学年	1	類型	全クラス
学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。						
評価基準	知識・技能	①定期考査7割 ②小テスト3割					
	思考・判断・表現	①定期考査4割 ②小テスト3割 ③提出物3割					
	主体的に学習に向かう態度	①観察5割 ②提出物5割					
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
1 学期	オリエンテーション コンピュータの基本操作		(知)情報技術の基本的な操作について、文字入力やデータ保存などに関する技能について理解すること。 (思)情報技術の効果的な活用と、目的に応じた活用について考えること。 (学)解決に向けて積極的に行動し、学習活動に主体的に取り組もうとしている。				
	1章 情報で問題を解決する メディアの特徴 情報セキュリティ 情報に関する法律		(知)情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解すること。 (思)情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察すること。 (学)解決に向けて積極的に行動し、学習活動に主体的に取り組もうとしている。				
	2章 情報を伝える コミュニケーション デジタル化 情報デザイン		(知)メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解すること。 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解するとともに、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けること。 (思)メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。 コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えること。 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善すること。 (学)解決に向けて積極的に行動し、学習活動に主体的に取り組もうとしている。				
2 学期	2章 情報を活用する デジタル化表現		(知)情報のデジタル化について科学的に理解している。 (思)デジタル化の仕組みを踏まえた上で、適切な利用法や目的や状況に応じて情報を扱うことができる。 (学)解決に向けて積極的に行動し、学習活動に主体的に取り組もうとしている。				
	3章 コンピュータを活用する コンピュータとは何か ソフトウェアの仕組み 演算の仕組み		(知)コンピュータの構成・各構成要素の働きとコンピュータでの情報の内部表現について理解している。 (思)身の回りにおける情報機器の仕組みについて深く考えることができる。 (学)解決に向けて積極的に行動し、学習活動に主体的に取り組もうとしている。				
	4章 データを活用する データの形式 データベースの活用 データ分析		(知)データの蓄積・管理・提供する仕組みや、データを収集・整理・分析する方法を理解している。 (思)複数のデータから目的に応じて最適なものを選択できたり、データを分析することができる。 (学)解決に向けて積極的に行動し、学習活動に主体的に取り組もうとしている。				
3 学期	3章 コンピュータを活用する アルゴリズム プログラミング		(知)アルゴリズムを表現する手段や基本的なプログラミングによってコンピュータを活用する方法について理解している。 (思)目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータを活用し、その過程を評価し改善することができる。 (学)解決に向けて積極的に行動し、学習活動に主体的に取り組もうとしている。				
使用教材 (教科書・ 副教材)	教科書：「一新編-情報Ⅰ」（東京書籍）						
学習方法	授業での座学・実習を中心に行う。						
評価方法	(知) 定期考査・提出物 (思) 定期考査・実習作品・提出物 (学) 実習作品・課題や授業への取り組み状況等						

教科	家庭	科目（単位数）	家庭基礎（2）	学年	1	1	類型	全クラス
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。							
評価基準	知識・技能	調査7割～8割、課題・実習作品・授業等への取り組み状況2割～3割						
	思考・判断・表現	調査7割～8割、課題・実習作品・授業等への取り組み状況2割～3割						
	主体的に学習に向かう態度	調査7割～8割、課題・実習作品・授業等への取り組み状況2割～3割						
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標					
年度初～1学期中間 中間調査	A編第1章 生涯の生活設計		(知) 人の一生について様々な生き方があることや生涯発達の視点を理解し、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。 (思) 男女が協力して家族の一員としての役割を果たし家庭を築く重要性について、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 (学) 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図ろうとしている。					
	A編第2章 青年期の自立と家族・家庭		(知) 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。 (思) 男女が協力して家族の一員としての役割を果たし家庭を築く重要性について、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 (学) 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図ろうとしている。					
1学期中間～期末 中間調査	B編第2章 衣生活と健康		(知) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、材料や構成、衛生を理解し、計画・管理に必要な技能を身に付けている。 (思) 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、根拠に基づいて論理的に課題を解決する力を身に付けている。 (学) 衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活の充実向上を図ろうとしている。					
	B編第1章 食生活と健康		(知) ライフステージや目的に応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活を理解し、計画・管理に必要な技能を身に付けている。 (思) おいしさの構成要素や食品衛生について問題を見いだして課題を設定し、根拠に基づいて論理的に課題を解決する力を身に付けている。 (学) 衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活の充実向上を図ろうとしている。					
1学期期末～2学期 中間調査	ホームプロジェクト活動		夏休みの課題					
	調理実習 1～5回を計画（予定）		(知) 料理の様式に適した料理法や食器、盛り付けなどを踏まえて食事を整えることができる。 (思) 食材の栄養成分やその特徴を調べ、考察を通して、食の案や食品の調理上の性質をとらえる力を身に付けている。 (学) 自己の食生活についての問題を見いだし、健康、安全及び環境などの視点から食生活に関わる情報を適切に判断し主体的に考えることができる。					
2学期中間～期末 中間調査	A編第4章 高齢期の生活と福祉		(知) 高齢期の現状と課題、住まいの工夫について理解し、計画・管理に必要な技能を身に付けている。 (思) 安心できる暮らしや共生社会、災害対策について多面的に考察する力を身に付けている。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。					
	B編第3章 住生活と住環境		(知) 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境について理解し、基礎的な技能を身に付けている。 (思) 子どもを生み育てることの意義について多面的に考察する力を身に付けている。 (学) 子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。					
2学期期末～3学期 学年末 中間調査	A編第3章 子どもの生活と保育		(知) 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 (思) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて多面的に考察できる。 (学) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。					
	C編第1章 生活における経済の計画 第2層 消費生活と意思決		(知) 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 (思) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて多面的に考察できる。 (学) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「未来へつなぐ 家庭基礎」（教育図書） 副教材：「最新 生活ハンドブック資料&成分表」（第一学習社）							
学習方法	毎時間のテーマに対して、自己の家庭生活を考えながら学習すること。実習課題やホームプロジェクトに関しては、作品の提出を行うこと。							
評価方法	(知) 調査7割～8割、課題・実習作品・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 調査7割～8割、課題・実習作品・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 調査7割～8割、課題・実習作品・授業等への取り組み状況2割～3割							